

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「大槌北実践区（大槌町）」《読書活動の推進》
 - 2 【 家庭学習 】 夏休みだからできること、すべきこと
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「大槌北実践区（大槌町）」《読書活動の推進》

学校図書館の課題のひとつに、古い本が多く、環境整備が進んでいないということがあります。大槌北実践区では、読書ボランティアによる読み聞かせのほか、図書の修理やバーコードの貼り付け、書架の整頓、特設コーナーの設置など、楽しい図書館づくりに取り組んでいます。また、家庭では、ノーメディアデーに重点を置き、読書活動の推進に取り組んでいます。

事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_ootsuchikita.pdf

2 【 家庭学習 】 夏休みだからできること、すべきこと

夏休みは、学校から子どもたちの声が聞かれなくなる寂しい期間ですが、その時にしかできないこともあります。どの学校でも、この間に1学期の教育活動を総括して、2学期を迎える準備にあたると思います。その際に「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の進捗状況について確認してみるのも大切なことだと思います。

学校は、子どもを家庭から離して、社会共通の知識基盤を一斉に教えるところであり、これまでは家庭での子どもの学習にまではあまり立ち入らない傾向にありました。「家庭での学習まで学校が担うのか」という意見は、もっともだと思います。

しかし、限られた授業時間のなかで、学力向上と家庭学習を切り離して考えることはできません。授業で学んだ内容を定着させるのが家庭学習であり、そこでは家庭との連携は必須です。改正教育基本法においても、“家庭や地域との連携”が明文化されており、それは「いわて型コミュニティ・スクール構想」や「学校教育指導指針」においても掲げられているところです。

学校の教育活動は、組織としての取組です。それは、先生個人の努力や工夫に依存して行われるものではなく、学校としての推進体制のもと、共通の取組によって展開されるものです。そこで、次の項目を参考に、推進体制として確立されているか、先生方の共通取組となっているかを確認してみるのはいかがでしょうか。

しょうか。

- (1) 調査・アンケートによる自校児童生徒の実態把握とその分析
- (2) 卒業までに「育てたい力」の確認と重点化
- (3) 卒業までに「育てたい力」の家庭・地域との共有認識・協力体制の構築
- (4) 家庭学習推進担当の校務分掌への位置づけ
- (5) 校内研究での家庭学習や宿題の指導法についての情報共有・学習会
- (6) 家庭学習や宿題に取り組む時間保障等、学校の教育カリキュラムの点検
- (7) 「家庭学習の手引」作成等による具体的に取り組むべき内容の明文化
- (8) 家庭における悩みやニーズの調査と支援する関係機関との連携
- (9) 放課後や休業日における学習支援に係る地域人材の活用

「家庭学習の手引」を作り、家庭に配布している学校も増えてきていますが、配布して「では、各家庭でお願いします」という状況があるとすれば、もったいない気がします。県 PTA 連合会でも、家庭生活の調査を実施して危機感を感じているところですので、自校の PTA に持ちかけ、PTA 主催による「家庭学習の手引」の学習会を行ったり、「家庭学習の手引」の内容がちゃんと行われているかを定期的にチェックしたりして PTA 会報で広報を図るのも一つの方法と思われまます。

また、「文武両道」を掲げている学校も多くありますが、部活動・スポーツ少年団で夜遅くまで練習し、学校が出した宿題を家庭で行う時間を保障してきたかどうかについての指摘の声もあります。家庭学習を行う時間を保障していなかったのなら、指導者や保護者が集まって話し合わないと、2 学期も同じことになり、学力向上も望めません。

宿題の出し方も「毎日」ではなく、月曜日に「1 週間分」を提示して、金曜日の終わりの会で確認し、終わっていない生徒は、地域の方が土曜日に行う「学習会」に参加して遅れを取り戻すとか、必ず顧問が付き添って部活動の最初の時間に部員相互の教え合い学習を 30 分行うというのはどうでしょう。少し過激でしょうか。

一人では勉強が進まない生徒も、部活動の仲間と一緒に楽しくでき、助け合うことで仲間意識や「文武両道」の意識もさらに高まるのではないかと思われまます。

夏休みの今だからできること、すべきことをやって、2 学期を迎えたいものです。

3 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) ねえ、ねえ。小田加代子さんって、知ってる？

(振ちゃん) 2 組で一番背の高い女の子だよ。

(教ちゃん) 違うわよ。それは、小高洋子ちゃんでしょ。元テレビ岩手のアナウンサーだった人よ。

- (振ちゃん) へえ。それで、その人がどうしたの？
- (教ちゃん) 「絵本ワールド in いわて」で、盛岡大学短期大学部幼児教育科の学生の読み聞かせを聞いて、泣いていたのよ。
- (振ちゃん) いけないんだ。女の子を泣かせちゃ。
- (教ちゃん) もう……。感動して、涙が止まらなかったの。それくらい、素晴らしい読み聞かせだったということよ。
- (振ちゃん) だって、絵本でしょ。絵本で、泣くなっておかしいよ。
- (教ちゃん) 何も、わかってないわね。絵本だからって、子ども向けとは限らないのよ。盛岡大学短期大学部幼児教育科の学生は、長谷川義史さんの「おじいちゃんのごくらくごくらく」と谷川俊太郎さんの「ともだち」を読んだのだけど、家族や友達のことを考えさせる素晴らしい内容で、中学生に読み聞かせても、きっと教室がシーンとなるわよ。
- (振ちゃん) へえ。ほかに、どんな絵本があるの？
- (教ちゃん) ドーターの「スガンさんのヤギ」は自由と責任について、ミュリエル・マンゴーの「黒ぐるみのからのなかに」は生と死について、アンソニー・ブラウンの「おんぶはこりごり」は家族の中での役割について考えさせられるわ。
- (振ちゃん) 学校では、毎日朝読書をやっているけど、その時間に先生が読み聞かせをする日が週に1回あってもいいよね。お説教くさい余計な解説をせずに、感じるままにすれば、中学生も喜ぶと思うな。
- (教ちゃん) いいわね。今の5冊を週に1回読んで1ヶ月を過ぎたら、きっと中学生も読み聞かせの楽しさを感じるようになるわ。その後は、地域の読書ボランティアの方にバトンタッチすれば、先生に負担もかけないし……。2学期からすぐに取り組めるわね。
-

4 【編集後記】あつしのひとりごと

5歳まで生きられない子どもたちが、世界中で年間約880万います。世界の中には、国内で紛争が20年以上続き、無政府状態の国もあります。私たちの「平和」な日常は、世界の中では当たり前なこと……ではないのです。夏休みは、この「平和」について考える機会が多い時。私も「ユニセフ平和コンサート」に出演し、ギターの弾き語りで、“戦争を知らない子どもたち”、“教訓I”、“イマジン”を歌ってきます。「ラブ&ピース！愛し合ってるか〜い？」

⇒ 第26号は、8月10日（火）配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★平成21年度配信のバックナンバー（第1～17号）はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

～～～